

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句:	わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。(ヨハネによる福音書 15:12)
保育目標:	<p>0歳児 ・生活のリズムができ、楽しんで過ごすことができる。春の訪れを感じる。</p> <p>1歳児 ・神さまが守ってくださることを喜ぶ。自分で出来ることが増え、安心して過ごす。</p> <p>2歳児 ・友だちと一緒に楽しみながら大きくなることを喜ぶ。神さまが守ってくださることを喜ぶ。</p> <p>3歳児 ・友だちに思いを伝え合うことを喜び、互いの思いを受けとめる。大きくなったことを喜ぶ。</p> <p>4歳児 ・友だちや保育者との関係を土台にして、自分を思い切り発揮する。4月を楽しみにする。</p> <p>5歳児 ・互いを認め合い、助け合う仲間になっていることを喜び感謝する。4月を楽しみにする。</p>

近頃、手先も凍るような寒い日があれば少し動く汗ばむような暖かい日もあり、『三寒四温』とはよく言ったものですね。冬の間、縮こまっていた木の芽(特に園庭の木蓮の芽は見事です!)や草花もだんだんと膨らみ始め春が一步一步近づいてくるのを感じます。色の少なかった景色がカラフルな色と香りに包まれるのもうじきです。つくづく、神さまのなさることはその時にかなったものですね。

今年度は新型コロナウイルスの対策を取りながらようやく、かかし座やひとみ座、ハーブ演奏や花音さんなど外部の方を園にお呼びして子どもたちの心に本物を届けることができました。また、こども園まつりで出会った多くの人や事など、日常とは違う非日常を感じる経験は子どもたちの無意識の中で存在し、心象風景や感覚となってその人のものになっていくと思っています。乳幼児期のことを私たちはあまり覚えてはいません。断片的な記憶として思い出すことはあっても、小・中学校の時のように自分で語れるほど覚えている人は少ないでしょう。でも、その人の土台となっているのは確かです。目に見えないのですが、その人の中に確かに存在しているのです。

2月の子育て講演会に講師でいらしてくださいだった小風さちさん(松居直さんの長女)とお話している中で「目に見えないものは見えないけれどあるんですよ。私は、それを目に見えるようにする事が絵本を描く事だと思っています。」とおっしゃっていたのが、私にはとても印象深く心に響きました。目に見えないものは確かに存在していて見えるものよりも貴いと思っていましたが、『在るからこそ、それを目に見えるようにする』という発想は、私には思い付きもしませんでした。目に見えないものを見るようにするには…これからの私のテーマになりそうです。

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。コリント 第2 4:18」と聖書にあります。

私たちは子どもたちの目に見える育ちだけに心を注いでいるのではなく、目に見えない内面の育ちを最も大切にしています。子どもたちは、安心してありのままを出せるようになると自分の内面を見せてくれます。その内面に触れていく時私たちは『これはどのように捉えたらいいのだろうか?』『本当は何を伝えたいのだろうか…』など見えないものを感じたいと心を動かしそれをわかりたいと願い、葛藤します。でも、すぐに応えがでる訳ではなく、子どもと一緒に混沌とした中を歩んで行くのです。神さまに祈り子どもと一歩踏み出せた時は、喜びと共に次に続いていく力を与えられます。

「子ども自身に育つ力がある」「子どもを信じて任せる」本当にそう思います。まず、初めに『子ども』がいて周りに『私たち』がいるのですから。そう、園生活は子どもと大人が共に紡いでいくものですね。子どもの糸と大人の糸、片方の糸だけでは紡ぐことはできません。また、どちらかの糸が強くてうまく紡ぐことはできません。子どもの糸が思いっきり自由に動けるように大人の糸は下糸となって支え、時には止め糸になるような…ちょうど良い関係を創りだしていくことですね。紡がれて出来たものは一つ一つ違っていきその風合いも様々です。それらをつなぎ合わせてみると、きっと見たこともない世界でひとつのものが出来上がっていくでしょう。今年度はいったいどのようなものを子どもたちと紡ぐことができたのか、とても楽しみです。

先日、いつものように外階段の下に立って「おはようございます!」と声をかけていると、2階のデッキから色々な子どもたちの賑やかな声や姿が私の目に飛び込んできました。気持ちの良い風に誘われて友だちと手に作った物を持って、互いに顔を見合わせ笑いながら走っていく子たち、登園して来るのを今か今かと待っていた友だちを見つけて大きな声で「〇〇～」と満面の笑みで名前を呼んでいる子、外に行こうとして友だちに「待ってよ～」と慌てて靴を履いている子、その子に「待ってるから大丈夫だよ」と侍従川を見ている子などなど、どの子も思いを通わせる友だちがそばにいました。4月の頃とは違う子どもたちの姿に『ああ、大きくなったなあ』と一人ひとりの育ちを感じます。自分たちの世界で笑ったり泣いたり怒ったり…みんな今を一生懸命生きていますね。これからも色々なことはあるでしょうが、私たちも一緒に心をたくさん動かし思いを尽くして子どもたちと歩んでいきたいと思えます。

保護者の皆さま、2022年度もご一緒にここまで歩んできましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。これからも皆さまと心と知恵を合わせて子どもを真ん中に歩んで行きたいと願っております。

年長組の子どもたちがこども園を巣立っていく日も近づいてきました。残りの園生活も子どもたちとたっぷり楽しんで紡いでいけますように神さまに祈ります。

園長 鈴木 直江